

オリジナル道徳教材

高学年 親切、思いやり

『思いやりの行動』（教師用解説）

作…かないともゆき

絵…なぐもゆうと

授業プログラムの学級活動を想起できるように、授業を受ける児童と同様の設定にする。

先日、学活の授業で「見えない大変さがある人」について考えた。授業をうけて、わたしは
主人公は、優しい心をもっている。その後の行動が、よかれと思ってとった行動であることをおさえない。
そのような大変さがある人たちには親切にやさしくしてあげたいと感じた。

以前、先生がクラスメイトのトモ君は、字を読むときに
見えにくいときがあるのだと話をしていたのを思い出した。

トモ君と低学年のころから一緒に遊ぶことが多かった

わたしは、さっそく総合の時間にタブレットで調べた内容
「〇〇してあげた」に、主人公が無意識にもっていた立場の優位性が表れている。
をノートに写す活動を手伝ってあげた。

一度目の「ありがとう。」
「ありがとう。」

と、トモ君にお礼を言われたので、わたしはうれしい気持ちになった。

次の総合の時間も、トモ君がタブレットにうつっている文字を時間をかけて読んでいたので、

わたしは代わりに読んで、ノートにうつしてあげた。トモ君は、

二度目の「ありがとう。」
「ありがとう。」

と、お礼を言ってくれた。



しばらくすると、総合の時間は班ごとにわかれて、それぞれが調べたことをまとめて発表のじゅんびをする活動になった。わたしとトモ君はちがう班だ。トモ君と同じ班のマー君とヨウコさんの会話が聞こえてきた。

マー君とヨウコさんも、アツシ君のトモ君への対応は「ひどい」と感じている。周囲の子も、トモ君のことを特別視している。

「アツシ君、ちよつとひどいよね。」

アツシ君は、誰にでも積極的に声を掛ける子である。トモ君にだけ特別な接し方をしていて、おさえないことをおさえない。

アツシ君は、行事のときには、いろいろな人に声をかけてクラスを引っ張っていくリーダー的存在である。

アツシ君は、トモ君を突き離れたのではなく、一緒に練習に取り組んでいる。
気になってトモ君のいる班の様子を見に行ってみると、アツシ君とトモ君が発表の練習をしていた。

「トモ君、もう一回、今のところを練習してみよう。」

トモ君は、字を読むのが苦手なので、発表の原こうを読むのに苦戦していて、アツシ君と何度も練習をしていたのだ。

「読むのが苦手なのだから、代わりに読んであげればいいのに・・・」

と、わたしは思った。

総合の時間の発表の日、やはりトモ君は一文字ずつゆっくりと原こうを読んで発表を行った。時間はかったが、最後まで発表をすることができた。

トモ君の「活躍できている姿」。

発表を終えたトモ君は、

三度目の「ありがとう。」その後の満足そうな表情をおさえた上で、一度目と二度目の「ありがとう。」に込められた気持ちと比べる。「ありがとう。」

と、アツシ君にお礼を言った。

トモ君の満足そうな表情を見て、わたしは今までの自分の行動を思い返した。

【基本発問】

○「わたし」は、どのような気持ちでトモ君の手伝いをしていたのでしょうか？

↓手助けしたい。優しくしたい。

○アツシ君の行動を見た時の「わたし」は、どのように思ったでしょう？

↓ひどい。

【中心発問】

◎「今までの行動を思い返した」時の「わたし」はどのようなことを考えていたでしょう。

↓アツシ君が正しかった。

↓自分は間違っていない。

【補助発問】

◇みんながトモ君だったら、「わたし」とアツシ君の行動は、それぞれどう思いますか？

↓優しくしてくれることはうれしい。

↓自分でできることは、自分でしたい。